

三井物産環境基金 2017年度 活動助成 助成案件一覧

対象課題	団体名	代表者	案件名	案件概要	審査委員の評価	主な活動地域	助成期間	助成金額
地球環境	NEKKO	現地調整員 富田 一也	「Niwakatpun Tanuman (ナツメヤシによる局所植林の新技法)」にて世界遺産の棚田を保全する事業	フィリピン、イフガオ州バナウエの世界遺産に指定されている棚田を保全するための植林事業を実施する。急激な近代化を背景に、同地域では若い働き手が出稼ぎに行き深刻な人手不足に陥っており、棚田の維持管理が困難な状況にある。そのため、独自に開発した新技法を活用して、棚田の崩壊の危険性のある場所や脆弱な場所に、少ない人手で、ナツメヤシの苗木をピンポイントで植樹する活動を行う。	活動内容の意義があると評価する。また、活動内容及び計画が具体的であり、実現性が高いものと期待する。	海外	3年	5,500千円
資源循環	Class for Everyone	理事長 高濱 宏至	リユース製品で非電化地域にICT教育機会を作る事業	日本で使われていないソーラーパネルやパソコンなどをタンザニアなどの海外でリユースすることで、非電化地域をはじめとする世界各地で、質の高いICT教育の実現を目指す。自然エネルギーで稼働する小規模オフグリッド型電源モデルを作り、地球規模でモノが循環しながら途上国の非電化地域にある学校教育の質を飛躍的に向上させ、さらに地域住民が自分で電気を作ることのできる仕組みを整える。	活動の意義が高く、現地関係者との円滑な連携を確保して活動することを期待する。	日本/海外	2年	5,200千円
生態系・共生社会	世界自然保護基金 ジャパン	スマトラ・アムール担当 川江 心一	インドネシアにおけるトラと住民が共存できる村落開発	インドネシアの国立公園では、現地の貧困とコーヒー農園拡大に伴う乱開発を背景に、トラが人の住む地域に出現して駆除され、トラの生息数が減少している。そこで、本活動では、住民とトラが共存できる村落開発の手法を確立・普及する。確立した手法は、長期的には他国にも拡大し、アジアで減少しているトラの個体数増加に貢献する。	インドネシアでの森林保全、トラの保護は重要な課題であり、意義のある活動と評価する。現地の課題の背景を踏まえた対策や活動を期待する。	海外	1年	4,400千円
生態系・共生社会	テラレックス	プロジェクト・マネージャー 江角 泰	産学民連携による持続可能な森林保全のための自然共生型産業の普及活動 ラオス不発弾汚染地域における養蜂の技術向上と普及を目指した“farm miel”プロジェクト	ベトナム戦争中に爆撃された不発弾が大量に残るラオス・シエンクアン県では、焼畑や森林伐採により換金作物を栽培して収入を得ている人が多いが、安全性や生態系破壊等の問題がある。本活動では、安全に活動ができ、森林を保全しながら収入を得られる養蜂事業の支援を行うことにより、自然資源を活用した産業の確立を目指す。現地農林局との産学官民協働で、養蜂技術支援、商品化、生産体制の構築、環境教育などの活動を実施する。	活動内容の意義が高く、現地関係者との連携が確立されていることを評価する。	海外	2年	10,000千円
生態系・共生社会	SPERA森里海・時代を拓く	理事(理事長代行) 田中 克	水辺で遊ぶ子供達と共生する水郷柳川の「うなぎの郷」づくり	森と海をつなぐ川の流域に築かれた都市の活動が拡大したことで、水の循環が損なわれ、地球環境問題が深刻化している。本活動は、上記の課題認識のもと、福岡県柳川を対象として、子供たちを含む多様な関係者の協同により人とウナギが共生するモデル「うなぎの郷」を生み出す活動を実施する。本活動により、次世代とともに、多様なつながりに根ざした森里海連環の世界を築くことを目指す。	団体のこれまでの活動成果をさらに発展させていける活動であると評価する。本活動が、有明海と柳川を巡る掘割をつなげるものとなることを期待する。	日本	3年	6,700千円
生態系・共生社会	小笠原クラブ	会員 武田 俊介	アホウドリをモデルケースとした住民主体の環境保全活動の実現	特別天然記念物であるアホウドリの再導入活動が小笠原諸島で開始されて10年が経過し、戦後初めて小笠原生まれの若鳥が帰島するなど成果が少しずつ見えてきたところである。本活動では、地元住民が継続したモニター調査と普及啓発を行うことで経験や技術を蓄積し、また本活動についての地元の信頼及び支援を獲得して後継人材の育成を行い、地元住民による活動が次世代にも受け継がれる環境を培う。	アホウドリの保全の意義は高く、活動内容を評価する。また、活動を継続させていくための人材育成に取り組んでもらうことを期待する。	日本/海外	3年	9,700千円
生態系・共生社会	Conservation International	Tonle Sap Scape Manager Heng Sokrith	Building resilience and sustainability in the Cardamom Mountains watershed, Cambodia (カンボジア・カルダモン水系の復元と持続可能なコミュニティ構築)	CI (Conservation International) がカンボジアのトンレ・サップ湖で実施してきた水田漁業改善プログラムの成果を活用し、持続可能なコミュニティ構築の取組みを実施する。具体的には、近年設立された女性のための貯蓄グループを拠点として、現地住民の資金管理能力の向上、環境教育、失われた森の復元、自然資源管理能力の向上を進めるとともに、コミュニティと政府との関係強化を推進していく。	現地住民の資金管理能力や環境保全意識の向上は重要な課題であり、実績ある団体による成果を期待する。	海外	2年	9,878千円
生態系・共生社会	ふるさと発・復興住民会議	司長 松下 修	山都町白糸台地の棚田保全と学習型・労働型ツーリズムによる共助の地域づくり	熊本県山都町の通潤橋と白糸台地の棚田は国の重要文化的景観に指定されているが、高齢化、有害獣被害、離農者の多発、更に熊本地震と本年の豪雨被害が重なり、危機的な状況にある。本活動は、学習型・労働型ツーリズムを通じて、主婦や若い世代による農業ボランティアや地域Iターン者に、棚田や生態系の保全、灌漑農業や環境保全型農業によるコメづくりを体験してもらうことで、地域資源及び自然の保全活動に進める。	活動の意義が高く、現地関係者との連携が確立されており、活動成果を期待する。	日本	3年	7,000千円
人つ間などが社会の	グリーンウッド自然体験教育センター	事務局長 齋藤 新	「地域間こども交換留学」と、「暮らしと自然体験活動」による地域教育構築事業	過疎化が進む泰阜村は、村内の自然や文化を体験活動として提供し、地域間交流を進めている。この手法を、村内のこども、子育て世代に向けて提供するとともに、泰阜村と同様の課題を抱えている他地域と協働して、こどもの交換留学事業を実施する。以上の活動により、里山保全を理解する人材を育成し、持続可能な村づくりを進める。	子どもの体験活動は重要な取組みであり、活動意義を評価する。特に、こども交換留学事業に期待する。	日本	2年	2,000千円
人つ間などが社会の	熱帯森林保護団体	代表 南 研子	先住民の経済的自立を目的とした養蜂事業	ブラジル・シウラー先住民居住地域は、貨幣制度の導入が完全に確立していないが、ここ数年で貨幣の導入が余儀なくされている。本活動により、生物多様性に富む環境において、持続可能な手法で自然からの恩恵を受ける養蜂事業を推進し、現地住民の経済的自立を促進することを目指す。	活動の意義は高く、事業の実施体制が確立されていることから、現地で自立的な事業となることを期待する。	海外	1年	2,700千円

合計： 10 件

63,078 千円

※海外団体申請案件は円換算